



TITLE:

カール・メンガーの歴史學派批判

AUTHOR(S):

白杉, 庄一郎

CITATION:

白杉, 庄一郎. カール・メンガーの歴史學派批判. 經濟論叢 1938, 47(3): 378-394

ISSUE DATE:

1938-09-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/131145>

RIGHT:

經濟學叢論 每月一日發行
第四十七卷第三號 昭和十三年九月一日發行
大正四年六月二十一日第三種郵便物認可

會學濟經學大國帝都京

經濟學叢論

號三第 卷七十四第

行發日一月九年三十和昭

論叢

戰時下の米穀對策

經濟學博士 八木芳之助

利子論の新舊

文學博士 高田保馬

時論

昭和十三年度豫算を論ず

經濟學博士 汐見三郎

研究

經濟發展と信用擴張

經濟學士 一谷藤一郎

カール・メンガーの歴史學派批判

經濟學士 白杉庄一郎

靜學的均衡理論と動學化の問題

經濟學士 青山秀夫

カルブンの利子論

經濟學士 澤崎堅造

フラスケムパーの指數理論

經濟學士 内海庫一郎

說苑

飛驒白川の戸口

經濟學博士 本庄榮治郎

ペーシユ・貨幣機構理論の一修正

經濟學士 岡倉伯士

附錄

彙報

外國雜誌論題

(禁轉載)

カール・メンガーの歴史學派批判

白杉 庄一郎

十九世紀の四五十年代に基礎を確立したドイツ歴史學派が、七十年代にはその陣容を一新して、以後その隆盛を謳歌してゐた八九十年代に、同じドイツ語による犀利執拗な一人の批判者が現はれた。いふまでもなくオーストリアのカール・メンガー(一八四〇—一九二一年)である。

然しメンガーは初めから歴史學派の批判を表看板として立現はれたものではなかつた。彼は一八七一年に『國民經濟學原理』を公けにしたが、それは當時國民經濟學がその經驗的基礎に於て缺くる所があつたため實際家によつて輕視されてゐたので、經驗的基礎の上でそれを改革することが必要であるといふ彼の見解に基づいて生れたものであつた。そのため彼は、「人間經濟の複雑な現象をその最も單純な確實な觀察をなほ許すが如き諸要素に還元し、この諸要素に性質相應の測度を當て且つこの測度を確保しつゝ再び複雑な現象が如何に合法則的に生じ來るかを研究する」といふ方法をとつた。この方法は自然科學のみならず凡ゆる經驗科學に共通だと考へてそれを經驗的方法と呼んだ。¹⁾それによつて彼は主觀價值説に到達し、精密科學としての國民經濟學の確立を企圖してオーストリア學派の基礎を置いたのであつた。それは方法上又内容上歴史學派に對立せざるを得ないものをもつて

1) Carl Menger, Grundsätze der Volkswirtschaftslehre. Erster, allgemeiner Theil. Wien 1871. S. V-VII. 安井琢麿氏譯、國民經濟學原理、1-3頁。

ゐた。にも拘らず彼は『原理』に於ては極めて謙遜な態度を持した。それは歴史學派の長老ロッシャーに獻げられたのみならず、²⁾ 彼はその序文に次の如く書いてドイツの學界に挨拶を送つた。

「我々にとつて特に喜ばしかつたことは、ここに我々によつて加工された我々の科學の最も一般的な諸理論を包括する領域が、少からざる部分にわたつて、本來まさしくドイツ國民經濟學の最近の發展の所有物であり、従つてこゝに試みられた我々の科學の最高原理の改革が殆んど例外なくドイツの篤學心が創造した所の準備研究を基礎として行はれた、といふことである。故に願はくばこの書がまたオーストリアの一協働者の親しき挨拶、ドイツが我々に送つてくれた極めて多數の優秀な學者と卓越した書物とによつて我々オーストリア人に與へた所の極めて豊富な科學的刺戟の弱々しい反響と目されんことを。」

然るにドイツ歴史學派の經濟學者達はこの書の價值を認めなかつた。例へばシュモラーはその短評を物して、業績は疑ひもなく明敏な才能の所産ではあるが、然し實際問題の解決といふよりはむしろ抽象的な學校問題を新しく定式化したものに過ぎず、國民經濟上の問題は總て純私經濟上の問題と混同されてゐると言ひ、國民經濟學の初學者が細密研究によつてその資格を證明する代りに教科書を以て初見參した、と酷評した。時に初學者といはれたメンガーは評者より二歳若かつたに過ぎなかつた。⁴⁾ 爾後離伏十有餘年、遂にメンガーは歴史學派の假借なき批判者として登場した。『社會科學特に政治經濟學の方法に關する研究』(一八八三年)に於てある。彼は本書を著はすに至つた動機を當時のドイツ經濟學界の事情との關聯に於て次の如く述べてゐる――

アダム・スミスとその學派の國民經濟學理論が確實な基礎を缺いてゐることが次第に認識され、その改革が必要であるといふ確信が擴まつて行つた。ドイツの國民經濟學者達はその改革の方向を新しい研究方向の創設といふことに求めた。そして他の學科に於ける新研究方向を政治經濟學に移植した。新研究方向の創設者たるの名譽は簡單に得られた。猫も杓子もこの方向に走つた。然しその際彼等は新研究方向が借りて來られた學科の形式的性質と政治經濟學のそれとの相違を看過した。新研究方向は大部分間違つた類比及び政治經濟學の本來の課題を無視した結果であつた。にも拘らず彼等はそれのみが正しいと信じ

2) 何故メンガーが、『原理』をロッシャーに獻じたかは明かでない。然しメンガーが最後までロッシャーを尊敬してゐたことだけは明かである。即ち彼は、1894年ロッシャー追悼論文に於て、ロッシャーとロッシャー學派とを區別し、オーストリア學派の批判はロッシャー自身ではなくて「ロッシャー學派の一面の歴史主義」に向けられたと言ひ、ドイツとオーストリアとの國民經濟學者の間に方法論争が活潑に行はれてゐた時代にも後者はドイツ國民經濟學に對

他の研究方向を總て正當ならざるものと考へた。かくしてドイツの國民經濟學は他の國の國民經濟學上の潮流から切離されて了つた。「實際近頃ドイツ國民經濟學の文獻は外國からは殆んど顧みられず、その固有の方向によつて外國には殆んど理解されず、何十年といふものずつと孤立してゐて眞面目な反對者から影響されることもなく、またその方法を斷乎として信賴して來たために嚴正な自己批判を行ふこともなかつた。ドイツに於ては別の方向をとる者は否定されるといふよりはむしろ問題にされなかつたのである。」³⁾

かくの如く誤つた方法が行はれ、そのため科學の進歩が阻害されてゐると考へてメンガーは方法論の詳細な展開を試みたのである。彼はかうも書いてゐる。

「ドイツに於ける政治經濟學の研究にその本來の課題を再び意識せしめ、我々の科學の發展にとつて有害な一面性から解放し、一般斯學の潮流からの孤立狀態を除き、かくしてその不満足な狀態に鑑み政治經濟學が緊急に必要としてゐる改革をドイツの地勢で準備しようといふのが、私の指導原理であつた。總ての偉大な文化國民は科學の建設にその特有の使命をもつてゐる。……政治經濟學も亦ドイツの思想家がその目標を意識して協力することを絶対に必要とする。彼を正道に復歸せしむべく奇與することこそ、この書のひたすらなる課題であつた。」⁴⁾

二

メンガーは『研究』に於て國民經濟に關する研究の形式的性質の相違からそれに關する理論的・歴史的並に實踐的科學を區別する。そして歴史學派の國民經濟學者達がこの三を嚴密に區別しなかつたこと、就中理論的科學と歴史的科學とを混同したことを非難する。即ち彼等は理論的理解と歴史的 understanding とを十分區別せず、國民經濟現象の歴史的理解を求めるところを以て理論的國民經濟學に於ける歴史的方向をとることだとし、理論的國民經濟學を以て歴史的科學であるとする。彼等は國民經濟の理論又は歴史を援用して國民經濟の具體的現象又は發展を理解せんとしながら——これは全く正當な努力であるが——而もそれで以て國民經濟理論の建設に參與し、それを敘述

する ロッシャーの偉大な功績を決して忘却しなかつたと述べてゐる。The Collected Works of Carl Menger, Vol. III. Kleinere Schriften zur Methode und Geschichte der Volkswirtschaftslehre. 1935. S. 277-78.

3) Grundsätze S. X. 譯、6頁。一十九世紀初期のオーストリアには事實上同國人の經濟學者がゐなかつた。メンガーはウィーン及びブラーグの大學で學んだが、そこでは經濟學は法律學課程の一部となつてゐて、その教師は殆んどド

するものと信じてゐる。かゝる混同は科學の體系論並に方法論に悪影響を與へた。のみならず本來の理論的研究の進歩を妨げた。理論的國民經濟學に於ける非歴史的傾向を克服せんとする、それ、自體、正當な努力は、科學の理論的性格を放擲するに至らしめ、加ふるに理論的研究一般特に歴史的觀點を確保しての理論的研究に代ふるに歴史的研究乃至歴史的敘述を以てするといふことになつた。かくの如き事情からドイツに於ては國民經濟の個々の領域に於ける歴史的理解は進歩したけれども、國民經濟の理論的研究は休止してゐるといふのである。⁹⁾

次にメンガーは理論的國民經濟學の方法として精密の方法——『原理』に於ける經驗的方法——と經驗的・實在論的方法とを區別する。この區別はシュモラーの解した如く演繹的方法と歸納的方法との區別である。¹⁰⁾メンガーは、經驗的・實在論的方向が歴史學派の主張する如く理論的研究の唯一のものではなく極めて不完全なものであるとして、精密的方向の重要性を強調する。彼は一面的な實在論に反對するが、決してその方向の有用性を輕視したり否認したりするのではない。兩方向は共に正當なものであつて、國民經濟現象の理解・豫見・支配の手段であり、夫々の仕方でその目的に役立つものである。然るに歴史派國民經濟學者は精密の方法即ち「抽象的思惟の技術」を副次的なもの否殆んど汚名に値ひするものとさへ考へてゐるといつて彼等に反抗するのである。又精密の方法と實在論的方法とは本質的に異つたものであるに拘らず、彼等は前者の成果を後者で以て評價するといふ誤謬を犯してゐることを指摘してゐる。¹⁰⁾

進んでメンガーは理論的國民經濟學を歴史學派の攻撃から守る。先ず歴史學派の主張によれば國民經濟は國民の社會的並に國家的發展との密接な聯關に於て取扱はれねばならぬとされる。之に對してメンガーは答へる。成

イツから招聘された經濟學者であつた。ハイエク、カール・メンガー評傳、經濟志林、第9卷第1號、144頁。

- 4) Literarisches Zentralblatt 1973 S. 142 ff. Carl Brinkmann, Gustav Schmoller und die Volkswirtschaftslehre. Stutt. 1937, S. 130-31.
- 5) Untersuchungen über die Methode der Socialwissenschaften, und der Politischen Oekonomie insbesondere. Leipzig 1883. Vorrede S. XIII-XX, 戸田武

程國民生活の具體的現象は無數の共働要因の結果であり、具體的な國民經濟は國民生活の一部分である。従つてそれは歴史的には國民史との聯關に於てのみ理解される。歴史家は國民經濟の事實をその形成に與つた一切の自然的並に文化的要因に還元せねばならぬ。經濟の要素を國民生活の全體から切離すことは非歴史的であり非現實的である。然しこれは歴史及び歴史的理解について言ふことである。それを全く機械的に理論的國民經濟學に持込むのは理論的科學の本質を無視するものである。先ず精密又は純粹經濟學についていへば、それを全體としての社會現象の理論にして下はうとする者は歴史的理解と理論的理解との觀點を混同し、歴史が一定現象の全ての側面を理解せしめるに對して精密理論は常にあらゆる現象の一定側面のみを獨自の仕方で理解せしめることを課題とするものであるといふ相違を看過する者である。次に經驗的方向は法・慣習等の非經濟的要因が國民經濟に與へる影響を顧慮する、別して經驗法則はその基礎たる場所的並に時間的事情に關してのみ妥當する、従つてそれ以外にこれらの影響を顧慮すべき特別の方法を必要としない、まして特別の學派を必要としない。のみならず理論的研究は總て、經驗的方向もまた、抽象を基礎としてゐる。歴史學派の代表者達は國民經濟の法則を確立するに當り常に國民生活を觀察するといふが、何故國民生活のみを選んで全宇宙を選ばないのか。こゝにも抽象があるではないか。だが彼等はそのことによつて結局理論的研究から完全に迷出て歴史の敘述に入込んだのである。¹¹⁾

又人間はその經濟活動に於て個人的利益のみを考へて行動するものでないから、理論的國民經濟學に於ける利己心の假定は獨斷だと非難される。成程國民經濟の歴史家にとつて國民經濟の歴史的發展を専らその成員の經濟

雄氏譯、社會科學の方法に關する研究、11-16頁。岩野晁次郎氏、竹原八郎氏、長守善氏共譯、社會科學方法論、11-17頁。

6) a. a. O. S. XXI-XXII. 戸田氏譯、18頁、岩野氏譯、17-18頁。

7) a. a. O. S. 3 ff. 戸田氏譯、35頁以下、岩野氏譯、26頁以下。

8) a. a. O. S. 11 ff. 戸田氏譯、43頁以下、岩野氏譯、33頁以下。本文にも明かなる如く、歴史學派は理論的國民經濟學を否定したのではないし、メンガー

的利己心から一方的に説明しようとするのは誤りである。然しそれを理論的國民經濟學特に精密國民經濟學に於ける獨斷だといふならば、例へば經濟生活に於ける人間の無過失等々を前提するのも獨斷だといはねばならぬであらう。否、自然科學でさへ非經驗的な現實に存在しない前提から出發するといふ意味で同様の獨斷に陥つてゐるものと言はねばならぬ。結局この非難は精密方法に關する無智から起る誤解に他ならない。同じことは實在論的方法についてもいへる。¹²⁾

最後に、歴史派國民經濟學者は國民經濟を人間經濟の單獨現象とは異つた全體とみた。そして國民經濟現象を理論的國民經濟學の唯一の對象とし、人間經濟の單獨現象を除外し、後者の一般的本質と一般的聯關とは私經濟的觀察方法と國民經濟的觀察方法との混同として放逐し、國民經濟現象を人間經濟の單獨現象に還元する努力を原子論として非難した。然しそれはまた歴史的研究と理論的研究とを混同し、國民經濟の單獨經濟に對する關係を無視したもので、精密的方向にも實在論的方向にも妥當しない。現に彼等も國民經濟學の體系を敘述するに當つては、理論と實際との矛盾を暴露して、複雑な國民經濟現象の單獨現象への還元といふ方法を採つてゐる。¹³⁾

以上が『研究』第一編に於けるメンガーの歴史學派批判の主要點である。第二編に於て彼は「政治經濟學に於ける研究の歴史的觀點」について論ずる。政治經濟學——即ち理論的國民經濟學・國民經濟政策學・財政學——は理論的並に實踐的科學であつて、歴史的科學ではない。苟くも政治經濟學一般の歴史的 directions が問題となる限り、政治經濟學を歴史的科學に改變することゝ解されてはならぬ。彼は政治經濟學の歴史的 directions を以てその性格を廢棄することなく國民經濟現象の發展の事實を理論的並に實踐的研究に於て把捉する研究方向と考へる。¹⁴⁾

は理論的國民經濟學に於ける歴史的觀點を否定するのではない。尙この點については後に述べる。a. a. O. S. 22-23 Anm. 戸田氏譯、52-54頁、岩野氏譯、38頁。

- 9) G. Schmoller, Zur Methodologie der Staats- und Sozialwissenschaften. Jahrbuch für Gesetzgebung, Verwaltung und Volkswirtschaft in Deutschen Reich. Jahrg. 7, Heft 3, 1883, S. 242, 戸田氏前掲譯書、316頁。

この見地から先ず理論的國民經濟學に於ける似而非歴史的研究方向が批判される。所謂非歴史的な舊理論に歴史的附屬物又は學說史的附屬物を飾りつけに、それが歴史的觀點からする理論的國民經濟學だといふものがある。而もその理論は舊理論と少しも異ならぬことが屢々である。又國民經濟理論を経験一般によつてではなく専ら國民經濟の歴史によつて基礎づけ、後者を以て唯一の經驗的基礎とすることに理論的國民經濟學に於ける歴史的觀點を主張する者がある。然し國民經濟の歴史を以て理論的研究の唯一の經驗的基礎となすのは誤りである。それと並んで日常の生活經驗即ち人間經濟の單獨現象の觀察が必要不可欠である。蓋し、國民經濟の歴史を研究することなくしては高度に發展した國民經濟の理論は考へ得られないが、然し國民經濟學は國民經濟現象の一般的本質のみならず人間經濟の單獨現象の本質をも研究しなければならないからである。最後に理論的國民經濟學は歴史哲學ではなく、國民經濟の發展法則に關する學でもない。發展法則は理論的研究に於て忽せに出來ぬものであるが、而も第二次的のものであり、その研究は理論的國民經濟學の僅かな一部分をなすに過ぎない¹⁵⁾。

理論的國民經濟學の歴史的觀點に關聯して所謂永遠主義・萬民主義パーペチュアルス・ユニバーサリスの誤謬について。總ての現象は絶えず變遷し、總ての存在は時の流れの中にある。然し事物の時間的變化が總て發展なのではない。發展とは通例事物の本質から現はれ、時間的變遷にも拘らずその個性が保持されてゐる如き變化である。従つて歴史學派の考へる如く發展なるものを顧慮しさへすれば永遠主義の非難を免れ得るといつたものではない。發展の概念に入らぬ現象の變化も顧慮される時に初めて理論に於ける永遠主義の非難は完全に克服されるのである。同じことは萬民主義といふ非難についてもいへる。同じ時に於ける同じ社會現象は國際間乃至地方間に於て異なる。この事情は多か

- 19) Untersuchungen, S. 31 ff., 46-48, 49 ff. 戸田氏譯、60頁以下、72-74頁、76頁以下、岩野氏譯、48頁以下、60-62頁、64頁以下。
- 11) a. a. O. S. 61-64, 67-70, 戸田氏譯、88-90頁、92-94頁、岩野氏譯、74-76頁、79-82頁。
Vgl. Anhang IX. Ueber die sogen. ethische Richtung der politischen Oekonomie. 戸田氏譯、102頁以下、岩野氏譯、279頁以下。

れ少かれ理論的認識の普遍妥當性の程度に影響しないでは止まぬ。國民經濟現象の國際間に於ける差異のために國民經濟の一般法則は認められないとし場所的事情によるその修正を必要だと考へる者は、一國內の地方間の差異についても同様の結果に到達せねばならぬ。國民經濟理論が萬民主義の非難を避けようとするだけでは、その行過ぎた一般化の缺陷は少しも克服されない。要するに所謂永遠主義・萬民主義なるものは歴史學派によつて不十分にしか把握されてゐない。而もあらゆる實在論的理論は或程度歴史學派がその方法で克服し得ると考へてゐる缺陷に苦しまざるを得ないのである。¹⁶⁾

次に國民經濟に關する實踐的科學に於ける歴史的觀點について。實踐的科學即ち技術論はあらゆる時代と國民にとつて、或は一般に事情の相違に關りなく、同じ妥當性を要求し得るやうなものではない。蓋し事情の特殊性に關りない人間の行動に關する原理といふものは不合理であるからである。國民經濟政策學も實踐的科學の一般的性格の例外となすものではない。従つて國民經濟政策學者が様々の事情を顧慮することを以て國民經濟政策學の特殊の方法であるとなすことは出来ない。同じことは國民經濟の發展段階の相違に基く經濟事情の相違についてにもいへる。發展段階の顧慮は實踐的科學の當然の要求である。のみならず、様々の發展段階を顧慮するにしても、地理的・人種的等々の事情を顧慮せぬ者は、歴史的ではあらうが、絶對主義的との非難を免れ得ない。實踐的準則の一般的相對性の原理ではなくて歴史性のみを固執するのは誤りである。¹⁷⁾

第三編に於てメンガーは歴史學派の有機體説を批判する。有機體と社會現象との間にはその機能に關してもその起原に關しても或種の類比が存在する。そこから理論的社會科學に於ける解剖學的・生理學的研究方向の觀念が

12) a. a. O. S. 72 ff. 46-47. 戸田氏譯、78頁以下、72-73頁、岩野氏譯、83頁以下。

13) a. a. O. S. 82 ff. 戸田氏譯、107頁以上、岩野氏譯、92頁以下。

14) a. a. O. S. 93-94. 戸田氏譯、117頁、岩野氏譯、100頁。歴史學派は歴史研究の方法と理論的並に實踐的經濟學に於ける歴史的方法を嚴密に區別しなかつた。(Grundzüge der Klassifikation d. pol. Oek. 1889. Kleinere Schriften,

生じて来る。然し社會現象と自然有機體との類比は前者の一部分即ち「歴史的発展の無反省的產物 (das unreflektierte Product geschichtlicher Entwicklung)」についてのみ言ひ得ることで、その他の社會現象は人間の考慮の結果であり有機體ではなくて機械組織^{メハニスム}に比すべきものである。かくしてメンガーは二種の社會現象を區別する。一はその創設に向けられた共同意志^{ゲマインザイン} (合意・實定法等)の結果であり、他は本質的には個人的目的の達成に向けられた人間努力の無反省的な結果、意圖されない合成果である。前者はその創設に向けられた共同意志によつて成立する。後者はその創設に向けられた共同意志なくして個人的利益を追求する人間努力の意圖されない結果として成立する。從來かうした事情が極めて不充分にしか知られてゐなかつたために、共同意志によつて創設された社會現象に對して無反省的過程によつて成立した社會現象の起原を自然發生的・有機的等々としたのである。所で所謂社會有機體は、全體の機能が諸部分によつて制約され、諸部分が全體によつて制約されるといふ點¹⁷⁾、及びそれが人間の考慮の結果でないといふ點に於て自然有機體に類似してゐる。然し類似は全く外的なものであつて、自然有機體は全く機械的に全體の機能に役立つ諸要素から成つてをり純因果的過程即ち自然諸力の機械的作用の結果であるが、反之所謂社會有機體は思惟し感情し行爲する人間の努力の結果である。即ち兩者の起原は本質的に異なるのである。兩者の類比が完全なものならば有機界を研究する自然科学特に解剖學と生理學との方法は同時に社會科學の方法でもあるであらう。然し兩者が異なる以上、所謂有機的理解は社會現象の一部分に妥當するに過ぎず、その外に實用主義的解釋 (die pragmatische Interpretation) ^(註) が不可缺である。又有機的理解が實狀に合致せる如く見える場合¹⁵⁾に於ても、それは當該社會現象の一側面を理解せしめるだけで、こゝでも本來の意味に於ける理論的理解の廣

S. 189). 而も歴史研究の課題を具體的な國民とその文化との發展の研究と叙述ではなくて、この發展の法則の確定であると考へてゐる。(a. a. O. S. 200). a. a. O. S. 124 ff. 戸田氏譯、142頁以下、岩野氏譯、121頁以下。尙歴史的方法を強調する者は恰も歴史的方法そのものがその本質に關して確定的なものであるかの如く考へてゐるが、さうではない、従つて國民經濟學研究の歴史的方法の強調は僅かしか知られてゐないものをより僅かしか知られてゐな

い領域が残されてゐる。更に社會現象の有機的理解は自然有機體の研究方法を社會研究に機械的に移植したものであつてはならない。それは生理學的又は解剖學的ではなくて社會科學的なものでなくてはならぬ。要するに所謂有機的方法是研究方法としては誤りである、尤も敘述の手段としては社會研究のある目的並に段階にとつては有效である、然し敘述の手段が研究の手段となる場合には非難されねばならぬ。¹⁰⁾ 以上の如く批判した後メンガーは所謂社會有機體にも理論的理解の二方向即ち實在論的並に精密的方向が適用され得るとし、進んで後者が如何に貫徹されるかを詳述してゐる。²⁰⁾

(註) 實用主義的解釋とは、社會成員の合意乃至實定法の產物であり、特に行爲する主體と考へられた社會の目的意識的共同活動の成果である一定の社會現象に對して、その本質と起原とを人々乃至權力者の社會的結合の意圖又は支配し得る手段から説明することである。²¹⁾

第四編に於てメンガーは政治經濟學を歴史的に取扱ふといふ觀念の發展について述べ、ドイツ歴史派國民經濟學者の根本思想は政治的諸科學に於て昔から知られてゐたこと、ドイツ歴史派國民經濟學者が歴史法學派の根本思想を無視し、自己を歴史法學派の意味で歴史的だと考へたのは單なる誤解に基づくこと、最後にドイツ歴史派國民經濟學の起原と發展とについて論じてゐる。興味があるのは法學上の歴史學派と經濟學上のそれとの異同に關する見解であるが、これについては後に觸れる所があるであらう。

三

以上が『研究』に於けるメンガーの歴史學派批判の概要である。この書が公刊されるや、歴史學派の總帥シュモ

いもので説明するといふことになる。(a. a. O. S. 254 Anm.)

16) a. a. O. S. 111 ff. 戸田氏譯、132頁以下、岩野氏譯、115頁以下。

17) a. a. O. S. 131 ff. 戸田氏譯、149頁以下、岩野氏譯、131頁以下。

18) 「一の全體の諸部分と全體自體とが相互に同時に原因であり結果である(兩者の間に相互的因果關係 gegenseitige Verursachung が行はれる)」とするの

ラーは捨てては置かなかつた。彼はそれをデイルタイの『精神科學序説』と共に紹介し、且つ批判した。¹⁹⁾メンガーはその批判に憤激し直ちに再批判の筆をとつて徹頭徹尾論争的な『ドイツ國民經濟學に於ける歴史主義の誤謬』(一八八四年)を書いた。然しこゝでは別に新しい思想は展開されてはゐず、『研究』に於ける主張が繰返へし確められてゐるに過ぎない。

先ずメンガーは、シュモラーが國民經濟に關する理論的科學と歴史的科學とを聯關づけんとしたのに對して反對する。政治經濟學(國民經濟に關する理論的科學と實踐的科學)は國民經濟に關する歴史的科學の補助科學であり、逆以後者は前者の補助科學である。國民經濟の歴史が國民經濟現象の理解に對して極めて重要であることは言ふまでもない。然し政治經濟學の補助科學は歴史だけではない。經濟史は理論的國民經濟學にとつても實踐的國民經濟學にとつても唯一の經驗的基礎ではないのである。のみならず、シュモラーは國民經濟の歴史と統計學とは政治經濟學の記述的部門だといふが、メンガーはそれらは決して政治經濟學の一部門ではなく飽くまでも補助科學に過ぎぬと考へる。歴史研究の成果を政治經濟學の研究に利用する者は政治經濟學者である。然し國民經濟の歴史そのものを研究する者はその限り歴史家である。又彼は、政治經濟學の改革に進む前に先ず經濟史が研究されなければならぬといふシュモラーに對して、歴史は廣く研究されてゐる、今やそれを基礎として理論的國民經濟學が建設されねばならぬと主張する。²⁰⁾

次に實踐的經濟學に關して、シュモラーは經濟政策學や財政學が從來實踐的指令たらんとしたことを難するが、實踐的指令たらんとする以外に實踐的科學はない筈である。而もシュモラーは一般に行はれてゐる實踐的科學を

は、非常に曖昧な我々の思惟法則に適合せぬ思想である」。(a. a. O. S. 144. 戸田氏譯、159頁、岩野氏譯、142-43頁)。メンガー的思惟の限界を知るべきである。

19) a. a. O. S. 139 ff. 147 ff. 戸田氏譯、155頁以下、162頁以下、岩野氏譯、138頁以下、145頁以下。

20) a. a. O. S. 153 ff. 戸田氏譯、168頁以下、岩野氏譯、150頁以下。

處方集と解し、それを理論的科學の資格に高めんとする。然しシュモラーの意味に於ける科學の資格などいふものは一般に存在しない。理論的科學も實踐的科學も同じ資格をもつものであつて、後者は前者へ高められることを必要としない。科學はその資格によつてはなくてその課題によつて區別される。勿論あらゆる科學はある意味に於て高められる即ち完成される。然しそれはシュモラーが考へる様にその性質と矛盾する他の科學の課題を附與することによつてはなくて、各々の科學に固有の課題を時々の人間の認識狀態が許容する仕方で完全に解くことによつてである。シュモラーは國民經濟の理論を歴史的科學に、實踐的國民經濟學を理論的科學に高めんとする。そして彼は理論的科學にまで高められた實踐的科學を一般的理論的國民經濟學に對する特殊部門として考へてゐる。然し實踐的科學は決して理論的科學とかゝる關係にあるものではなく、理論的科學も實踐的科學も共に一般並に特殊部門を持つものである。²¹⁾

要するにメンガーの『誤謬』に於けるシュモラー批判の主要點は理論と歴史と政策との區別に關した。この書はシュモラーに贈られたが、彼はこれを受納せず論争に關らざる旨の手紙を添へてメンガーに返送し、同時にその手紙を公開した。²²⁾ 有名な方法論争はこゝで打切られた。然し双方ともその主張を改めた譯ではなかつた。メンガーはその後折々に發表した論文に於て相變らず歴史學派を批判して止まなかつた。

一八八七年メンガーはシェーンベルクの編纂にかゝる『政治經濟學提要』の書評を書き、後『政治經濟學批判』として刊行した。一八八九年には『經濟學分類概要』といふ論文を發表した。この二の論文に於て彼は理論と歴史と政策との區別を繰返へし、科學的眞理の形式的性質によるこの區別は科學的進歩の結果である、經濟學に於

- 21) a. a. O. S. 161-62, 200 ff. 戸田氏譯、176頁、213頁以下、岩野氏譯、159頁、193頁以下。
22) G. Schmoller, Zur Methodologie der Staats- und Sozialwissenschaften. Jahrbuch für Gesetzgebung, Verwaltung und Volkswirtschaft in Deutschen Reich. Jahrg. 7. Heft 3. 1883. 戸田氏前掲譯書、309頁以下。
23) Die Irrthümer des Historismus in der deutschen Nationalökonomie, Wien

ではそれがまだ確立されてゐないが、その理由は經濟學の未發展といふ所に求められる、他の科學に於ても未發展の段階に於てはさうであつた、經濟學の進歩は必ずこの區別を確立せしめるであらう、而してドイツ國民經濟學に於てこの進歩を阻害してゐるのは歴史學派の方法論だとして曰く、「我が歴史的國民經濟學者の頭には國民經濟に關する綜合科學 (Universalwissenschaft) といふ理念がちらつてゐる、それは如何なるものにせよ總ての認識を、即ち歴史的・理論的並に實踐的眞理を、それらが國民經濟の領域に關する限り、包括すべきものと考へられるものである。經濟史と經濟統計學・理論的國民經濟學及び國民經濟政策學の區別は彼等によつて承認されない、又原理的に承認されるにしても、實はそれは再び止揚されなければならないといふ風に考へられる。」と。かくの如く一部の歴史的國民經濟學者は總ての科學を結合することを以て進歩と考へ、區別することを以て方法論的誤謬となしてゐる。然し經濟學の發展のために歴史的・理論的並に實踐的認識の區別——このことは決してそれらの内的聯關を廢棄するものではない——を出來るだけ促進しなければならぬといふ。尤も經濟學の未發展のために區別がどこでも有効だといふ譯ではないが、然しそれを準備することが必要だと若干の讓歩を示してはゐる。²⁴⁾

——尙『概要』に於て彼は經濟學の一部門として形態學 (Morphologie) なるものを新しく認めてゐる。それについては別に述べるとして、こゝではたゞ彼が、歴史學派の間に形態學的研究が強調されて來たのは個別的國民經濟現象の敘述以外に一般的なのが研究されねばならぬといふことが理解され始めた徴候として喜んでゐることだけを述べておく。²⁵⁾

又彼は『提要』に協力した學者達によつて歴史哲學的方法が捨てられ經驗論的立場がとられるに至つたが、まだ

1884. The Collected Works of Carl Menger, Vol. III. Kleinere Schriften.

S. 32 ff. 44 ff. 戸田氏譯、367頁以下、170頁以下、184頁以下。

24) a. a. O. S. 61 ff. 戸田氏譯、390頁以下。

F. J. ノイマンも理論的國民經濟學と實踐的國民經濟學との區分に反對して一般國民經濟學と特殊國民經濟學とに分けた。之に對してメンガーは言つた。政治經濟學を一般的部分と特殊的部分に分つこと、理論的なものと實踐的な

精密理論的研究に缺ける所がある旨を指摘して言ふ。國民經濟の經驗法則と並んで歴史學派によつて無視された精密法則——經濟性の法則——がある。この二の本質的に異つた法則が區別されるならば歴史學派によつて理論的國民經濟學に加へられた攻撃の大部分は誤解であることが分るに相違ない²⁵⁾。更に『概要』に述べる所によると『研究』の發表以來反對者よりも賛成者の方が多いが、まだ重要な點についてドイツ國民經濟學者の間に理解が足らないと言ふ。先驗論的構成方法で實在の經濟現象を認識し理解せんとする努力、或は經濟現象の發展といふ事實の無視等の從來かなり廣く行はれてゐた誤謬が理論的分析を不評にし、歴史學派はそれを免れるために具體的經濟現象及びその關係の外的規則性を記述することを以て唯一の正しい國民經濟學的研究の目標と考へるに至つた。彼等は先驗論的社會哲學の誤謬を避けんとして、より重大な理論的分析の斷念といふ誤謬に陥つたのである。蓋し歴史的研究は理論的研究に代り得るものでなく、經濟現象の發展の事實はその理論的分析を排除するものでも無用ならしめるものでもないからであると言ふ²⁶⁾。

『概要』の中でなほ注意すべきは、歴史學派に於て實踐的經濟學の獨立的意義が否定されて來たことを指摘してゐる點である。一般に實證主義(Positivismus)は、コントの場合に於ても、實踐的科學が社會科學の中で如何なる地位を占めるか満足に答へることが出來ないのであるが、ドイツ國民經濟學の歴史主義も國民經濟政策學が經濟理論に對して經濟學體系中如何なる地位を占めるかといふ問題に關して同様である。實證主義が實在界の認識を目的とする科學を先驗論的思辨から解放したのは大きな功績であつたが、實踐的科學を否定して了つたのは誤りである²⁷⁾。

ものとに分つことは方法論上異つた問題である。前者は個々の經濟學の體系論に屬し、後者は經濟學一般の分類に關すると。Zur Kritik d. pol. Oek. 1887, Klei. Schr. S. 122-23, Grundzüge einer klassifikation der Wirtschaftswissenschaften, 1889, a. a. O. S. 196.

25) Jahrbuch für Gesetzgebung, Verwaltung und Volkswirtschaft, Jahrg. 8. 1884. S. 677. 戸田氏譯、423-24頁。

最後に、一八九四年六月メンガーはロツシャーの赴報に接しその追悼論文を書いたが、それは恐らく彼が方法論争に言及した最後の論文ではないかと思はれる。その中に次の如く書いてゐるが、それは彼の歴史學派批判の要約ともみられよう。

「オーストリア學派と一部のドイツ歴史的國民經濟學者との間の對立は決して本來の意味に於ける方法の對立といったものではなかつた。ドイツの歴史的國民經濟學者が——科學的著作に於ても——歸納的方法の代表者といはれ、オーストリアの國民經濟學者が演繹的方法のそれといはれるならば、このことは實際の關係に一致するものではない。經驗的研究方向と合理主義的研究方向との對立も、歸納と演繹との對立も、これらの學派の內的關係を示すものではない。兩者は經驗が實在の現象及びその法則の研究に必要な基礎であることを認める、兩者は——私は恐らくかう考へていふだらうと思ふが——歸納と演繹とが緊密に聯繫し互に依存しあひ補ひあふ認識手段だと認める。現在まで完全には橋渡しされてゐない兩學派對立の理由となつてゐるものは遙かに重要なものである。それは研究の目標、即ち國民經濟の領域に於ける科學が解決しなければならない課題の體系に關する兩者の見解に關するのである。」オーストリア學派はこの論争に於て、理論の領域に於ては、科學的分析——複雑な國民經濟現象を經濟人の個人的努力とその心理學的原因へ還元すること——の正常なことで、かくして國民經濟現象とその聯關の理解を深めることを主張して來た。實踐的經濟學の領域に於てはそれは實踐生活の新しく現はれて來る狀態や要求が新しい從來の經驗によつてはまだ與へられてゐない手段を要求する場合には總て歴史主義では不十分であることを指示して來た。オーストリア學派は歴史研究に、否ロツシャーの意味に於ける歴史哲學にさへ、價值と意義とを決して否認して來たのではない。」

四

メンガーの批判の要點は結局國民經濟に關する理論と歴史と政策との區別及び理論に於ける精密の方法従つて精密國民經濟學の確立といふことを歴史學派が等閑にしてゐたといふ所にある。それは確かに歴史學派の急所を突いたものと言はなければならぬ。歴史學派が歴史的觀點の必要を感じて歴史的方法を強調しながらその方法

- 32) Zur Kritik der politischen Oekonomie, 1887, Kleinere Schriften, S. 115 ff.;
Grundzüge einer klassifikation der Wirtschaftswissenschaften, 1889, a. a. O.
S. 189 ff.
27) a. a. O. S. 189 ff.
28) a. a. O. S. 105, 123 ff., 130 ff.
29) a. a. O. S. 50 ff.

論的基礎づけに迷ひ、經濟史研究の方向に理論的研究を忘却せんとしてゐた時、歴史的觀點のあるべき所を指定したことは學史的に一時期を劃したものと云はねばならぬ。然し批判はアンティテーゼともいふべきものに過ぎなかつた。理論と歴史と政策とを區別するものは、それを區別せずその混沌たる全體を觀念するものに對して確かに一の大きな進歩ではあつた。然しそれが分ち得ないと考へられる程相互依存の關係にある側面を無視する譯には行かない。勿論メンガーもこの三が相互に依存しあふことを認める。然しこのことは彼に於ては相互を補助科學の關係に置くに過ぎない。そのことによつて各々は毫もその性質を變ずる所がないのである。理論的國民經濟學は明かに歴史的科學でも實踐的科學でもないといはれる。一應は確かにさうである。然し所謂理論的國民經濟學が扱ふ對象の歴史的並に實踐的構造は理論に歴史性並に實踐性を刻印せざれば止まぬものである。メンガーも理論が國民經濟の歴史的發展を顧慮しなければならぬ限りに於て歴史的觀點を許容する。然しこのことによつて理論的國民經濟學は歴史的科學となるのではない。いはゞ靜態の考察に動態の考察が加はるに過ぎない。歴史的なものもが理論に浸透して歴史的範疇といったものが問題になるのではない。又一切の經濟外的影響は實在論的理論で十分受止められるといふが、實在論的理論と精密理論との區別そのものが同様に問題であり、所謂精密理論そのものが歴史性並に實踐性を獲得しなければならぬと考へられる。さうした場合に初めて全體的考察・原子論その他歴史學派が問題とした所は解決され得るであらう。これらの點については別に考へるとして、要するにメンガーの立場は歴史學派のそれを手放すことなく一段高き立場に於てその要請を滿すといったものではなかつた。その點メンガーの立場には歴史學派のそれと正反對の抽象があると言はねばならぬ。現に彼が『國民經濟

30) a. a. O. S. 200-201, 296.

31) a. a. O. S. 278-79, 280.

32) 杉村廣藏氏はメンガーを極めて高く評價し、且つ彼とカントとの關係を指摘されてゐる、『經濟哲學の基本問題』108-110頁。

學原理』として提供したものは何ら國民經濟の原理的把握とは考へられない。そこに展開されてゐる原理は國民といふ限定がなくとも一向差支へない性質のものである。強いて國民といふ限定の意味を求むれば、その原理が國民的範圍に於て、否世界經濟の媒介なしに、把握されたといふに過ぎない。この點に於ても國民といふものを強調しつゝそれを經濟理論化して見せてくれなかつた歴史學派に相通する抽象性をもつと言つていいであらう。

メンガーが歴史學派を鋭く批判したにも拘らずそれを超えてより具體的な立場に到達し得なかつた理由として我々は、彼が歴史學派と同じ抽象的な立場に立つてゐた側面を考へなければならぬ。先ず、歴史學派もメンガーも共に古典學派に反對であつたのであるが、兩者が古典學派を改革するための方法論的基礎とした所は、自覺すると否とに拘らず、啓蒙哲學との對立に於て成立し發展したドイツ觀念論であつた。歴史學派がロマンティツクの側をうけついだとすれば、メンガーは合理主義の側をうけついだ。前者が客觀的觀念論の方向を追つたに對して、後者は主觀的觀念論の方向を行つた。³²⁾ 激しい對立にも拘らず、ドイツ觀念論の限界内に止まつてゐた限りに於て兩者は共通だつたのである。この共通性はまた理論の内容にも現はれてゐる。例へばメンガーによる主觀價值説の展開は、彼が『原理』の序文に感謝を以て書いてゐる如く、歴史學派に負ふ所が多かつたのであつて、その限り歴史學派の發展であつたといふことも出來よう。³³⁾

次に兩者は共に、古典學派に對して批判的であつたにも拘らず、古典學派と同じ市民的な立場に立つてゐた。この點は稿を改めてやゝ詳しくみることにしたい。蓋しそれによつて我々はメンガーの立場の限界を明かにし得るのみならず、同時に彼の歴史學派批判の歴史的社會的基礎を理解することが出來るであらうからである。

33) 杉村氏、同上、115頁以下參照。然しメンガーの精密理論が歴史性並に實踐性に於て歴史學派の要求を満したとは考へられない。氏はまたメンガーの經濟學を所謂純粹經濟學から區別して、それが社會性、歴史性、倫理性をもつたかの如く說かれるが、(經濟哲學通論、76-77頁)、メンガーの純粹又は精密國民經濟學に關する限り、さう解するのは無理だと思ふ。